

コレクション展 2014-II

どちらでもない/どちらでもある

2014年8月2日(土)～9月23日(火・祝)

表現内容の「不明確さ」を積極的に楽しむ鑑賞の醍醐味

美術作品において、何が、いかにして表され、何を意味するのか、といった表現内容が明確に示されることはしばしば、明確には示されていません。しかし、そのような不明確さは、必ずしも作品の欠点とはならず、優れた作品においては、抽象、具象のどちらともつかないイメージの揺らぎや、パロディや風刺に見られる意味の重なり合い、作者自身の分裂した視点や立場のせめぎ合いといった、複数の観点が高度に統合され、そのダイナミズムが作品の深みを生じさせています。

また、鑑賞するたびに異なる印象を与えるような、あるいは、鑑賞する人物の経験や心情によって変化するように表現の振れ幅が作品をいっそう魅力的なものにさせています。その不確かさを自覚し、揺らぎや変化を積極的に楽しむことは、鑑賞者自身のペースで作品を体験し、さらに繰り返し鑑賞することのできる、美術鑑賞の醍醐味といえるでしょう。

このような観点から、本展覧会では「不明確さ」が分かりやすく現れている作品を紹介しています。そして、その紹介にあたり、何かしらの結論に至りにくく、それでいて宙づり状態が心地よくさえ感じられる5つの対立項として「風景/模様」「人/モノ」「重い/軽い」「おぞましい/美しい」「私/なにものか」を設定し、各コーナーのテーマとしています。

「どちらでもない」「どちらでもある」という二者択一が有効に働かない状況を体験していただく本展覧会の試みが、不確かさにとどまり続ける鑑賞体験の豊かさとしみを感じていただく機会となり、鑑賞を重ねるたびに味わいと愛着が増していきような、お気に入りとなる作品との出会いにつながれば幸いです。

●出品作家

赤穴宏、秋山祐徳太子、青木野枝、カレル・アペル、荒川修作、巖嘔、フランシス・ベーコン、エイドリアン・バーグ、吹田文明、灰谷正夫、浜口陽三、日高理恵子、本田克己、堀浩哉、飯田善國、池田満寿夫、井上覚造、イヴ・クライン、草間彌生、郭徳俊、ヘンリー・ムーア、森芳雄、森村泰昌、名井万亀、ブルース・ナウマン、大岩オスカル、佐野ぬい、澤田知子、ジョージ・シーガル、シンディ・シャーマン、下村良之介、下道基行、鈴木健之、高橋秀、竹澤丹一、立石大河亜、殿敷侃、土谷幸夫、司修、ギュンター・ユッカー、宇佐美圭司、若林奮、山口長男、山路商、柳幸典、横尾忠則、吉村益信

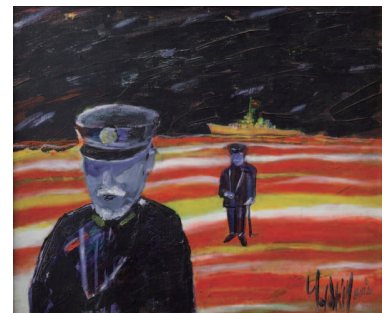
開催概要

- 【会期】 2014年8月2日(土)～9月23日(火・祝)
 【開館時間】 10:00-17:00 ※入場は閉館30分前まで
 【休館日】 月曜日(ただし祝休日にあたる日は開館し、翌日休館)
 【観覧料】 一般370(280)円、大学生270(210)円、
 高校生・65歳以上170(130)円 中学生以下無料
 ※()内は30人以上の団体料金

広島市現代美術館(学芸担当:松岡 広報担当:後藤、鈴木)
 〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園1-1
 TEL/082-264-1121(代表) FAX/082-264-1198
 E-MAIL/hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp



エイドリアン・バーグ
《シェフィールド公園 1985-86年秋》1985-86
「風景/模様」



秋山祐徳太子《東郷元帥きたる》1973
「重い/軽い」



若林奮《ドーム》1988、《水鏡》1997
「おぞましい/美しい」



竹澤丹一《黒い自我像》1995
「私/なにものか」